

令和5年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和6年5月吉日
学校法人 大野学園
鈴ヶ森めばえ幼稚園

1. 本園の教育目標

- ☆たくましいぬくもりのある人
- ☆自分のことは自分で率先してできる人
- ☆最後まで一生懸命、物事に取り組める人
- ☆感謝の気持ちを持てる人

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

幼稚園教育要領の改訂を踏まえ、一人一人の幼児を大切にしたい質の高い教育の実践を目指す。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育課程を見直し改善を図る	A	幼児の姿や遊び、活動の様子等について教員間で話し合い、教育に繋げている。また伝統行事や食育を行う事で日本の伝統や文化に親しみ、感性や思いやりの心を育てるようにした。
2	教育の質向上のために、外部講師による教員への研修を充実させる	A	月に4回、専門の講師による研修を行う。読み・書き・体操を学年に応じた指導や子ども達への声掛けの仕方を学ぶ。
3	特別支援教育のための園内支援体制を整備する	B	臨床心理士の方と教員間で情報を共有するようにし、一人ひとりについて方針を決めて対応した。
4	「教育環境」 朝の園庭清掃の時間に、園庭の環境設定を行い、登園してきた園児が順次、園庭で朝マラソンを行えるようにする	B	子ども一人ひとりが走る事を楽しみ、自信が持てるよう様々な展開を実践した。教員間で情報を共有し、子ども達が伸びるよう対応した。

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

4.総合的な評価結果

評価	理由
B	感染症対策をしながら、行事や日常の教育内容はほぼ従来通りに行うことができた。 特別支援児への対応は関係機関、家庭と連携し、より細やかに教員間の情報の共有が大切である。

評価 (A・・・十分に成果があった B・・・成果があった C・・・少し成果があった D・・・成果がなかった)

5.今後取り組む課題

	課題	具体的な取り組み方法
1	教育環境	保育室内の環境（遊具など）について話し合い、遊びが充実するように幼児の年齢に応じた室内環境や遊具の在り方を整えることに取り組む。
2	安全管理	大きな地震や事故が起こっている今日、子ども達の命を守ることの大切さを勘案して、危機管理マニュアルを読み込むなどの研修を行い、教員間で共通理解し、意識の向上やマニュアルの改善を図る。
3	特別支援	幼児一人ひとりの個性をとらえ、保護者や関係機関との連携を図り、その子の「できる」を増やしていきたい。また、その子の受け止めやすい「言葉かけ」を教員間で共有しながら園全体で取り組むようにする。

6.学校関係者評価委員会の評価

- ・先生方が明るく子どもや保護者に親身に真剣に対応してくださり、子ども達が楽しく幼稚園に通うことができた。子ども達が着実に成長しているのを感じる。今後も一人ひとりの子どもに目を向け、保護者の声も生かしながら、より良い教育へとつなげていってほしい。
- ・保護者アンケートの結果から、読み・書き・体操を幼稚園で取り組んでいることによりひらがなが読めるようになったり、走るのが速くなり、走るのが好きになったなど子ども達の「できる」が増えてきた等、園の取り組みに対して肯定的な評価が多かった。